

# 環境教育「まず、今できることから」

発行所：地域環境活性化協議会  
 編集者：代表幹事 高橋 賢一  
 連絡先：市民活動支援センター  
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7  
 (渋川福祉センター内)  
 TEL0561-51-2878



正月の三日と四日、熊野神社で御神楽祭りは催される。村の周辺地域帯にも数多く残る湯立神楽である。  
 金にならざる湯を神に捧げ、その湯も自分たちもいいたくこと、穢れを祓い、命の再生を願う。  
 村人が面をかぶって演じる舞は子もえな仕種の中にも、神への敬意は祈りと新しい生命力への願いが込められている。

村の暮らし  
 御神楽祭りと紙芝居

地元のみならず仲間が熊野神社の御神楽の紙芝居も作してみんなに音響も取り入れて聞かせてくれた。



十四世紀に源氏の落武者が開いたとされる富山村は、村民の力を合わせ、小さな村ながらも村づくりを一貫し推進してきた。その伝統を糧に、未来へ何げなく山映の地に山村文化交流村を創造しようとしている。  
 慶長八年(一六〇三)に徳川家康が江尾藩府を開き、富山村は天領として幕府の直轄領となり、代官所には専ら支配された。  
 天領とはいえ、村は米の生産には恵まれず、村人の生活は畑作を生業とした自給自足であった。したがって、年貢も米ではなく大豆や麦で納められたという。

▲自己紹介をみながら聞いています。  
 一晩宿泊する中で、発着行動が二日、三日、教壇運営、ここが分りました。  
 ▲みんなすばらしい。  
 いよいよ今日富山村から帰りませう。入りの感想を大きな紙を写表とします。

▲地元の小学校の生徒が交流会に参加しました。自己紹介をしています。

